

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2018年05月

物理で考える資産運用
(⑥ エネルギー保存の法則)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

技術の進歩で家事は減った。仕事はどうだ？ (1/3)

総務省統計局の社会生活基本調査によると、日本人の家事労働時間は年々減少しているそうです。1976年にひとり一日当たり107分を家事に費やしていたものが、30年たった2006年の最新調査では92分、およそ14%短縮しています。

この間に、洗濯機や掃除機、炊飯器、電子レンジ、自動給湯機などが普及し、洗濯や掃除、炊事、風呂焚きにかけていた時間は劇的に短くなりました。冷蔵庫や車の普及により、一度にたくさん買い物をして、それを保冷しておくというかたちでも、買い物の効率化は進んでいます。

その結果、前述した通り、家事労働時間は30年間で14%も減少しました。最近では、食器洗い機や洗濯乾燥機まで保有する家庭が増え、家事労働の短縮はさらに続いています。

技術の発達により、著しく業務効率が上がり、その結果、労働時間が短くなる。これが、正常な時代の流れ、というものでしょう。

では、家庭ではなく、会社での仕事はどうでしょうか？

(次頁につづく)

『仕事をしたつもり』（海老原 嗣生）より

技術の進歩で家事は減った。仕事はどうだ？ (2/3)

総労働時間の減少は、1990年代の中盤までは家事労働と同様に減少し続けたのですが、その後ほとんど減っていないのです。たとえば、従業員規模30名以上の一般社員の例でいえば、1994年と直近のデータを比べると、総労働時間は約0.5%増加しています。

先ほど挙げたOA機器の多くは、この間に本格的な普及を見せました。特に、パソコン・プリンター・インターネット・携帯電話は、同時期に猛烈に浸透しています。にもかかわらず、労働時間はまったく減らなかった。

これは何を意味しているのか？ 私はその理由を、「やらなくてもいい仕事が増えた」だけなのではないか、と思っています。

少し考えてみてください。その昔なら、手書きの汚いメモをベースに、会議・討論が行われました。社内資料などそれで十分でしょう。

ところが、パソコンの発達により、こうした身内の会議にまで、「きれいな」企画書が必要となり、そのために社員は無駄な労力を要するようになりました。

これは、時間と資源両方の無駄でしょう。

(次頁につづく)

『仕事をしたつもり』（海老原 嗣生）より

技術の進歩で家事は減った。仕事はどうだ？ (3/3)

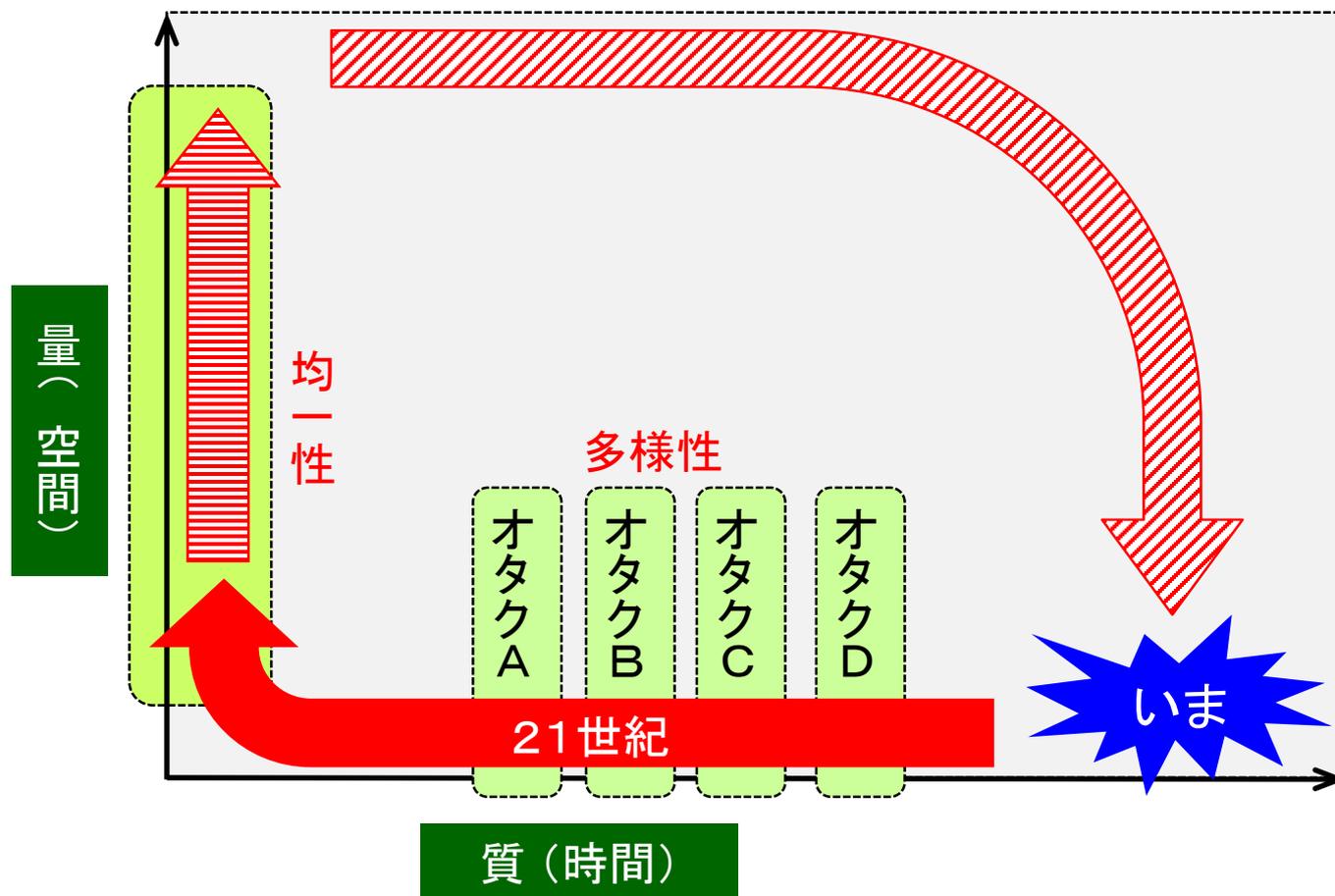
家事労働のように、誰にも見られず指図も受けない仕事については、無駄なことをやめたり、時間を短くするための技術進歩が起きたりするのですが、会社のように人が集まり上下関係ができる場では、それと対照的に、「仕事をしたつもり」が高度化して蔓延するという宿命があるからです。

(中略)

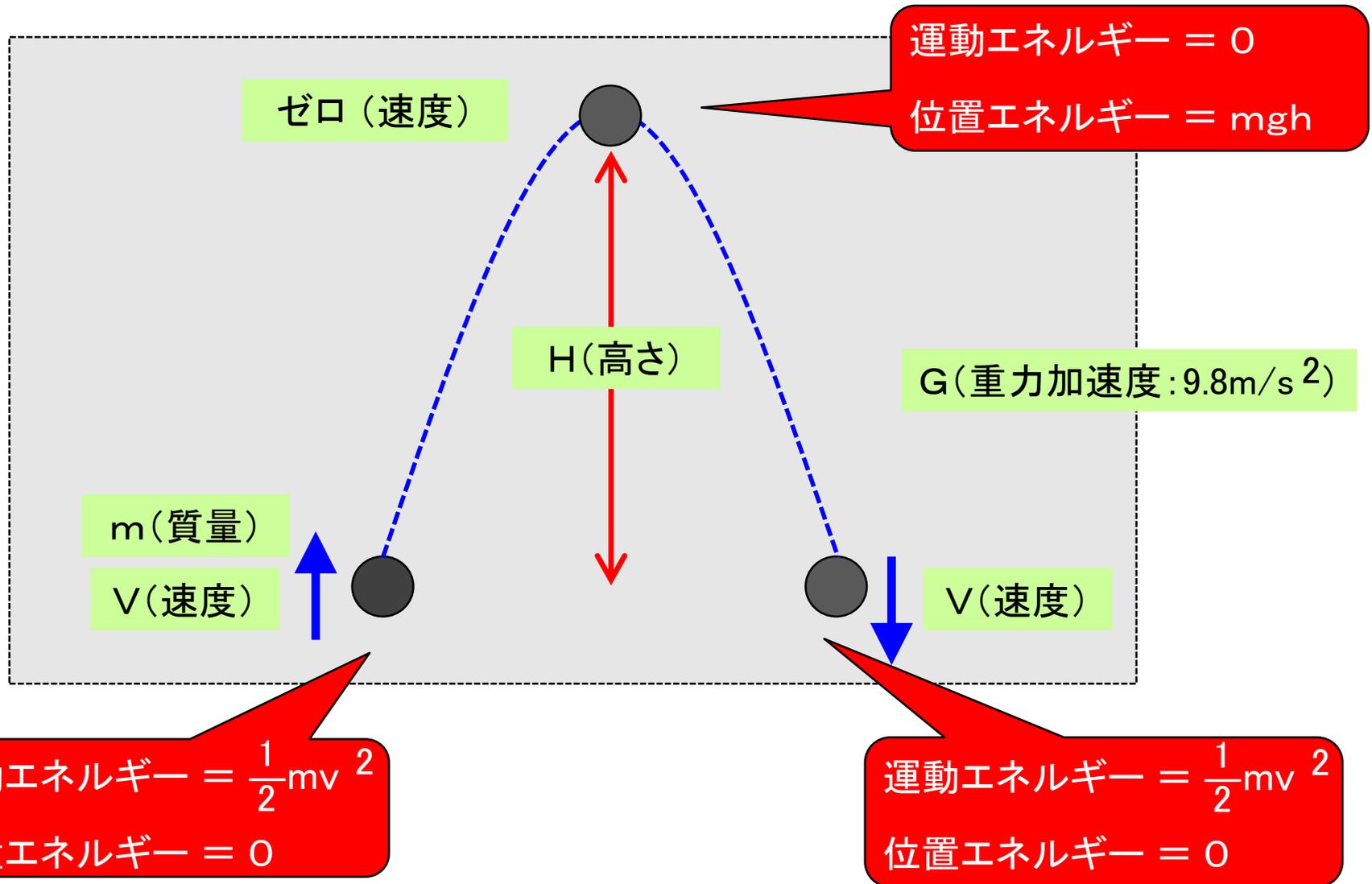
近代的な会社になり、組織が大きくなるにつれ、無駄がどんどん増えていく。顔の見えない大きな組織には何かとルールや体裁が必要となり、それに縛られて窮屈な思いをしていると、いつのまにか、ルールや体裁を整えることこそが自分の仕事だと勘違いして、疑問がわからない状況になる。

『仕事をしたつもり』（海老原 嗣生）より

「タテ型社会」から「ヨコ型社会」へ



エネルギー保存の法則



「位置エネルギー」の特性

運動エネルギー

位置エネルギー

【収益計算書】

フロー（流れ）で考える

【貸借対照表】

ストック（蓄え）で考える

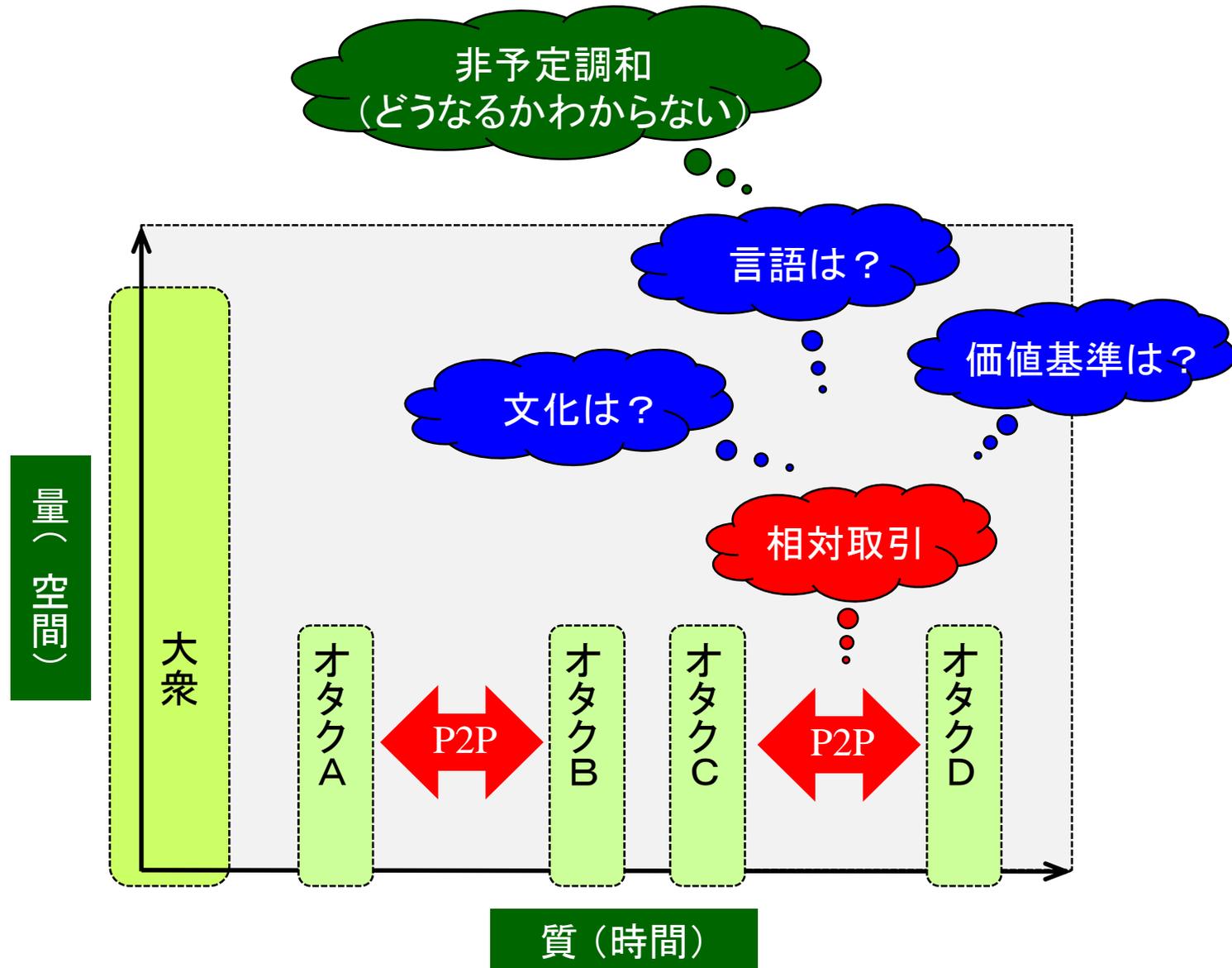
「場」の位置で変わる
「場」の強さで変わる

【例】
重力場
電磁場

反転することがある
（資産 ↔ 負債）

営業電話（時間泥棒）
→ ブラックリスト

「競争社会」から「共創社会」へ



他人の時間を尊重する欧米人

アメリカに留学していたとき、ちょっと驚いたことがあります。

クラスメイトの一人に、親しいドイツ人がいました。ある日、私が教室に入ったら、彼は机に向かって一心不乱に本を読んでいる。私はちょうど彼に用事があったので、軽く声をかけました。

しかし彼は返事をしない。聞こえなかったのかと思ってもう一度声をかけると、彼はジェスチャーで「今、忙しいから後にしてくれ」と示しました。

そのような場合、日本人だったら、たとえどんなに忙しくても返事ぐらいはするはず。無言でそんな仕草をしたら「失礼なやつ」と思われるだけ。また、そもそも声をかけられて、「忙しいから後にしてくれ」などと言える人も少ないと思います。

小さな出来事ではありますが、自分の時間を守ろうとする彼の強い意志を感じて、私はちょっとしたカルチャーショックを覚えました。

彼にかぎらず、欧米の人は自分の時間をきわめて大事にするように思います。自分の時間を邪魔されることに、徹底的に拒否反応を示します。

『レバレッジ時間術』（本田 直之）より

相手の時間を邪魔することに鈍感な日本人

自分の時間を守る意識の強い人は、相手の時間も尊重しようとします。逆に言えば、他人のペースに合わせてしまいがちな日本人は、相手の時間を邪魔することに対して、少し鈍感であるように思います。

たとえば、飲食ビジネスに関わるようになって分かったことですが、日本では、レストランを予約する電話を夜八時ぐらいにかけてくる人が多い。

レストラン側としては、もちろんサービス業なので、何時に電話がかかってこようがお客さんには丁寧に対応しなければなりません。それにしても、夜八時というのは、レストランにとって最も忙しい時間です。そこに電話をかけてくるのは、やはり相手を尊重した行為とは言えません。応対する側も、言葉や態度には出さないにしても、内心はいい印象を持たないでしょう。

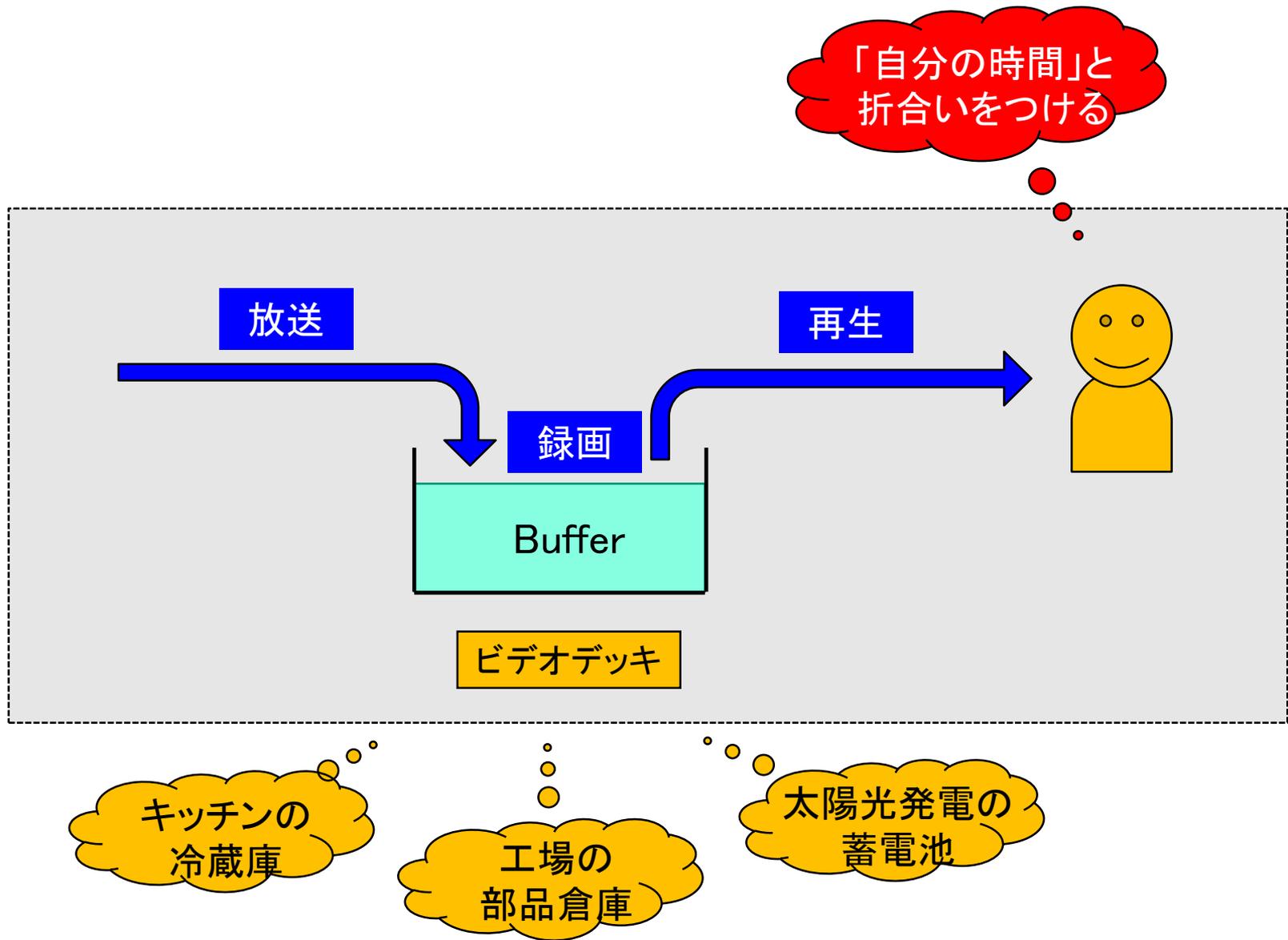
(中略)

電話をかける時間をちょっとずらすだけでも、得られる情報や人間関係の深さは大きく変わってきます。日頃からそういった配慮ができていれば、周囲の人の接し方も変わって、自分の時間も尊重してもらえるようになっていきます。

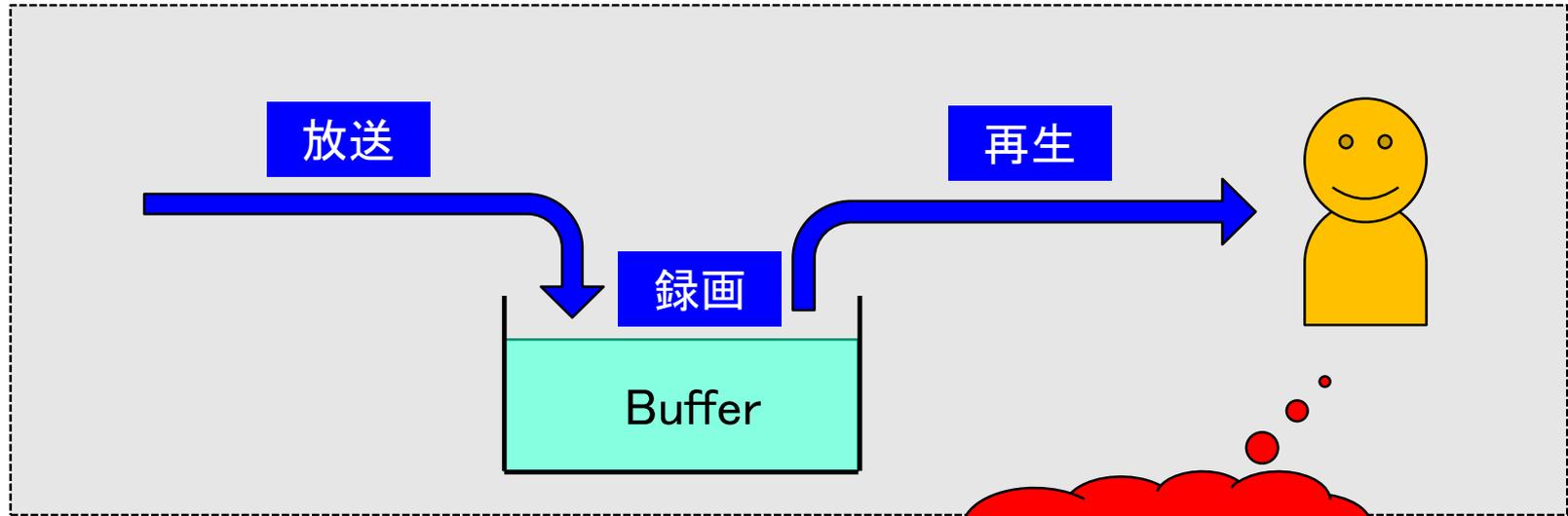
他人の時間を尊重することも、大事な時間投資と言えるのです。

『レバレッジ時間術』（本田 直之）より

「時間」をずらす（運動エネルギー）



「時間」を制御する（位置エネルギー）



「自分の時間」と
折合いをつける

段取

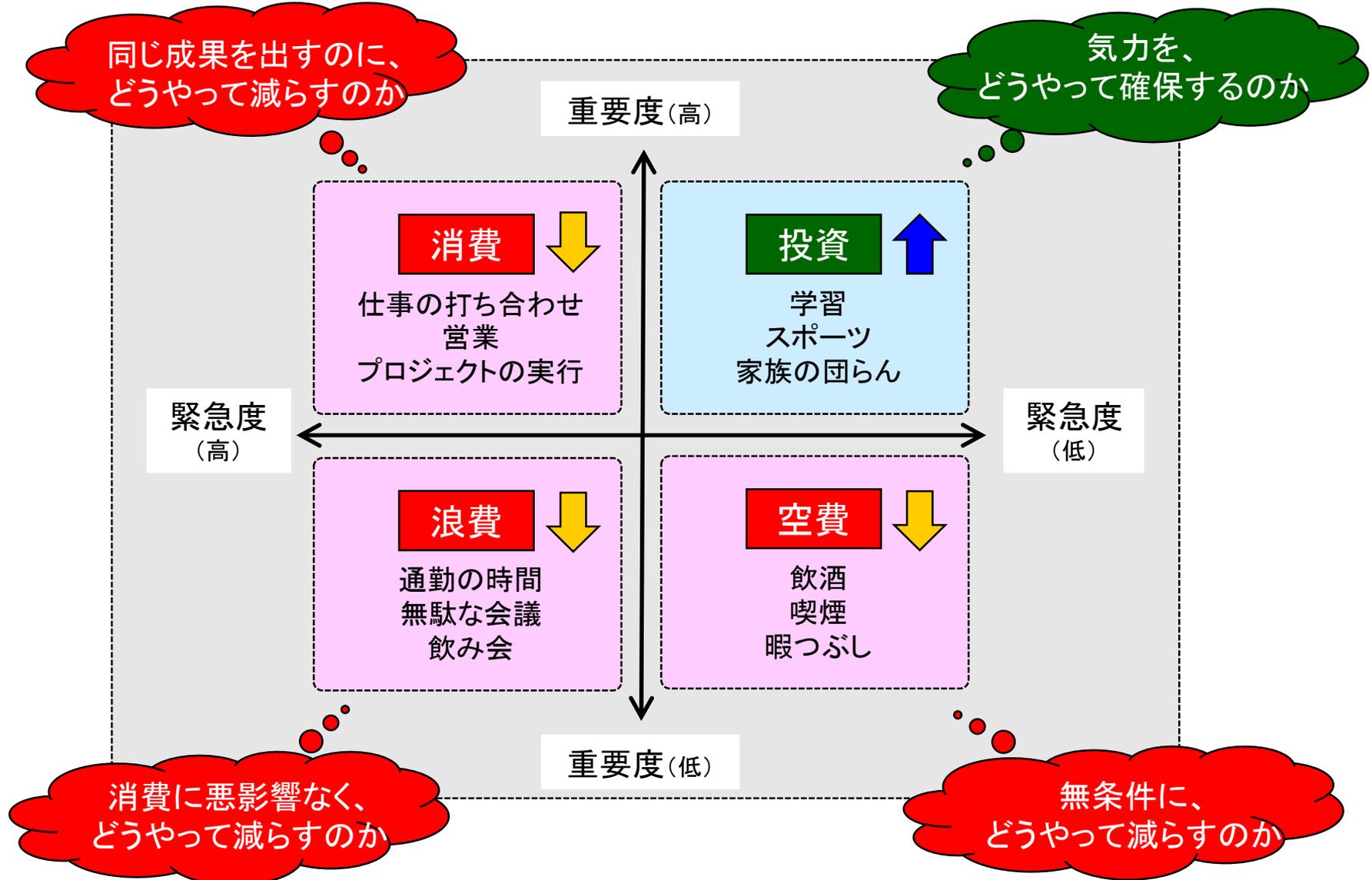
整理

【ムリ】
できないコはできない

【ムラ】
準備したようにしか、
結果は出ない

【ムダ】
要るコと要らないコを区別して、
要らないコをやめる

投資の時間（緊急でないが重要）



『無理なく続けられる年収10倍アップ時間投資法』（勝間 和代）より

コミュニケーション中毒に対処する (1/2)

私たちは日々コミュニケーションをとらないと生きていけません。しかし、コミュニケーションに過度の時間をとられるあまり、本来違うところに使えるはずだった時間が奪われてしまうことに注意が必要でしょう。

具体的には、電話・Eメール・ブログ・SNSなどのやるすぎです。これらを防ぐには、こうしたコミュニケーションツールについて、過度に使いすぎないよう一定のルールを設けることが必須です。

たとえば、私の携帯電話は、親しい人の間では「つながらずの携帯電話」として有名です。なぜでしょうか。それは、あえて使っていないためです。

待ち合せや緊急用には重宝していますが、日常のコミュニケーションには一切使っていません。それは携帯電話を使っていると、自分で時間をコントロールできないからです。携帯電話はこちらの都合も考えずに突然勝手にかかってくる、まさしく「時間泥棒」です。

したがって会社の電話も、自宅の電話も携帯電話も、原則すべて留守番電話です。

(次頁につづく)

『無理なく続けられる年収10倍アップ時間投資法』(勝間 和代)より

コミュニケーション中毒に対処する (2/2)

こちらからかけるのも、よっぽど緊急のときだけです。緊急時以外のコミュニケーションは全部メールです。メールも携帯メールはあまりにも入力の手間が悪いため、パソコンのメールしか使いません。

なぜ、自分からの連絡をメールにするのかといえば、電話で相手の時間を奪ってしまうのが失礼だと思っているからです。

携帯電話は解約したいぐらいなのですが、待ち合せや緊急連絡に不便だと言われるので、一応持っています。その代わり自衛手段として、二年に一回は電話番号を変えています。

そうすると、かかってくる人は、新しい番号を知っている近しい人だけになるので、重要性も判断できます。それに私の知り合いは、私が原則として携帯電話に出ないことを知っていますので、用件があるとメールで連絡するように習慣化してくれています。

『無理なく続けられる年収10倍アップ時間投資法』（勝間 和代）より